

2018

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.58

全国の公立小中学校のエアコン普及率 未だ半数に満たず

— 東京都99.9%から愛媛県5.9%まで、地域格差が大きいのが現状

前号では、この夏の猛暑、酷暑に関して触れたが、本原稿執筆時点でも、さすがに40℃を超えることはないが、30℃台後半、40℃間近の気候が続いている。

7月には熱中症の救急搬送人員数が全国で5万4220人、死者は133人。愛知県豊田市では小学1年生の男子児童が熱中症で死亡、想像外の状況となっている。

そんな中、話題となったのが、公立小中学校のエアコン普及率、設置率。

エアコン（冷房）の設置状況については、文部科学省が公立校を対象に、おおよそ3年に1回ずつ「公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況調査の結果について」（平成29年6月9日発表）という全国調査を実施している。

これによると、公立小中学校で普通教室で49.6%、特別教室で34.6%、合計では41.7%となっている。特別教室とは理科教室、音楽教室、図書室などのことである。

都道府県別で見ると格差が大きいのが分かる。設置率ももっとも高いのは東京都で、普通教室に関しては99.9%（2万7118室の

うち2万7116室）と、ほぼ完備に近い。

次に高いのが香川県で、97.7%（3467室のうち3387室）と、こちらもほぼ完備と言える。他方で、同じ四国でも愛媛県は5.9%（4745室のうち278室）と、ほとんどの教室がエアコンなしとなっている。

さらに同調査によると、幼稚園でのエアコン普及率は、保育室で59.9%、保育室以外の諸室で55.4%、全体で58.3%という現状である。また障がい者向けの学校である特別支援学校では普通教室で81.0%、特別教室で65.8%、合計で74.5%と比較的高い普及率にある。高等学校においては普通教室が74.1%、特別教室が37.1%、全体で49.6%という状態である。

そもそも教室の室温は、17℃～28℃が適温であると「学校環境衛生基準」で定められているらしいが、今年の夏の状況では、室内であっても30℃を超える事は想像に難くない。

「少子化」が問題となっている現在、まさに「子供は国の宝」である。このエアコン設置の課題に関しては、国を挙げて積極的に取り組んでいただきたいものである。

公立小中学校の空調（冷房）設備設置状況の推移



出典：文部科学省「公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況調査」の結果について（平成29年6月9日）

■参考資料

公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況の結果について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/1386475.htm

文部科学省「公立学校施設の空調（冷房）設備設置状況調査の結果について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/_icsFiles/afiedfile/2017/06/09/1386475_01.pdf

小中のエアコン設置 いまだ半数 暑くても設置率1割未満の自治体も
莫大な予算が課題(内田良) - 個人 - Yahoo!ニュース
<https://news.yahoo.co.jp/byline/ryouchida/20180717-00089626/>



美楽からの一言

異例で異常づくめの2018年、平成最後の夏である。西日本豪雨の被害も甚大であった。しかし連日のように続く、猛暑日。無用な熱中症患者を生まないためにも一刻も早い国の対策が望まれる。